

土佐史談会創立100年記念祝賀会

祝

平成28年6月17日 於：城西館



初期の土佐史談会会員

(大正10年11月29日・土佐高等女学校にて。高知市民図書館「中城文庫」所蔵)

プログラム

- | | | |
|---------|-------------------------------|---------------|
| 1、主催者挨拶 | 土佐史談会会長 宅間 一之 | |
| 2、祝 辞 | 高知 県 知 事 尾崎 正直 | 高知新聞社社長 宮田 速雄 |
| | 高知市 副市長 吉岡 章 | |
| 3、祝電披露 | | |
| 4、祝 舞 | 林 霊山 | |
| 5、鏡 開 き | 尾崎 正直・北代 淳二・久保 博道・熊野 裕二・貞廣 岳士 | |
| | 三宮さおり・高橋 正・宅間 一之・竹林貞治郎・竹村 邦夫 | |
| | 田村 壮児・筒井 秀一・中谷美弥子・宮田 速雄・吉岡 章 | |
| | 渡辺 盛男 | |
| 6、乾 杯 | 久保 博道 | |

土佐史談会100年の歩み

【土佐史談会の前史】

明治36・11・7 貴族院議員五藤正形らが土佐図書倶楽部を創立

40・1・27 「土佐図書倶楽部」創刊

45・4・10 高知県史編纂所を県庁内に設置。編纂委員に中城直正・田岡正枝・武市佐市郎

45・7・1 潮江村の三宅建海宅で中城直正・武市佐市郎・田岡正枝が史談に半宵を更かす（土佐史談会の濫觴）

大正元・9・20 土佐図書倶楽部楼上で第1回土佐史談会を開催（大正2年中断）

5・5・20 五台山吸江寺で土佐史談会再開。以後、戦前の例会は196回に及ぶ

6・1・20 第8回例会で土佐史談会を会員組織とすることを決議。会則を定める

13・3・1 「高知県史要」出版

【戦前・大正、昭和の歩み】

大正6・6・16 第13回例会で土佐史談会創立。世話掛

中城直正・武市佐市郎・浜田直美。高知県庁内県史編纂室に事務所を置く

9・23 機関誌「土佐史壇」創刊

7・10・1 「土佐史壇」第3号から哲学者・井上哲次郎揮毫の題簽となる

11・23 臨時掃苔会を開く。以後、戦前の史蹟探求会は171回に及ぶ

11・11・1 出版事業に着手。武市佐市郎「高知市附近案内図」を刊行

12・4・22 初代会長に清水源井を選任。幹事は中

9・1 城直正・武市佐市郎清水会長急逝。会長に中島和三を選任。事務所を懐徳館内に置く

14・1・31 中城直正逝去

15・2・13 田中光頭伯爵入会
会長に寺石正路を選任。大衆化路線を進める

昭和2・3・1 機関誌「土佐史壇」を「土佐史談」と改題。題簽は田中光頭揮毫。

3・5・27 桂浜で坂本龍馬銅像除幕式。松山秀美副会長が祝辞を読む。御大典を機に郷土の偉人顕彰気運が高揚し、県・市による史蹟記念碑の建立相次ぐ

4・6・15 定期総会。会員数1100余名に達す。

「土佐史談」第27号に平尾道雄が初めて寄稿

6・1・18 会長に中島和三を選任

8・26 会員の前内閣総理大臣浜口雄幸死去（浜口は昭和2年入会）

11・7 創立第20年記念式・物故会員91名の追悼慰霊祭を執行

7・1・23 会長に松山秀美を選任

7・25 国定小学教科書記載の坂本龍馬の呼び方「りゅうま」を「りょうま」と訂正するよう文部大臣に請求

9・9・5 南学会創立。次いで10月に兼山会組織。土佐の伝統精神復興の気運高まる

この年 沼田頼輔「山内容堂公所感」（『土佐史談』第46号）が不敬とされ大問題となる

10・1・19 会長に谷流水を選任

14・11・22 創立者武市佐市郎死去

15・3・25 谷会長死去

16・7・27 会長に松山秀美を選任

7・30 大政翼賛会高知県支部のもと土佐文化聯盟結成

12・8 太平洋戦争始まる。戦局悪化とともに土佐史談会の運営が苦境に陥る

20・7・4 高知大空襲。県特高課の検閲を受けていた「土佐史談」第80号の原稿焼失。戦前の土佐史談会潰滅状態となる

【戦後・昭和の歩み】

昭和25・5・3 土佐史談会の復興を協議

26・8・26 総会にて土佐史談会会則を変更

27・3・23 長浜浦戸史跡探求会（戦後第1回）会長に松山秀美を選任

7・10 「土佐史談」（復刊第1号・通巻80号）を発行

28・9・20 28年度例会第1回実施。都合6回実施

29・2・9 第1回郷土史講座 3・23まで毎週火・金に開く 講師21名

33・4・20 33年度例会第1回実施。都合12回実施

35・9・17 プリンストン大学マリウス・B・ジャンセン教授来高。

36・6・15 「土佐史談」第100号を発行

37・4・1 護国神社で維新志士百年祭執行

38・10・1 作家司馬遼太郎が坂本龍馬取材調査のため来県

9・16 四国郷土史会総会。この年、産経新聞に司馬遼太郎「竜馬がゆく」連載開始。龍馬ブームが起こる

11・3 会長に坂本重壽を選任

土佐史談会が高知県文化賞受賞

39・5・23 昭和38年度県文化賞受賞記念式典を挙行

40・3・1 第1回郷土史入門講座を実施(講師・山本大・横川末吉・平尾道雄・橋詰延寿・岡本健児)

3・27 長宗我部地検帳全19巻完成記念式典を挙行

7・9 ジャンセン教授再来高。平尾・山本・横川・関田英里らと対談

41・11・15 『土佐史談』幕末土佐藩特集号を発行

42・5・28 春の史跡めぐり、秋の史跡めぐりを恒例化する

10・6 土佐史談会が明治百年事業の内容につき県に要望書を提出

11・10 『土佐史談』明治百年特集号発行

45・12・30 『土佐史談』土佐文学史特集号を発行

48・5・19 会長に西村寛を選任

8・7 第1回親と子のための郷土史講座

12・1 土佐史談会内に平尾記念文庫を設置

49・6・10 第一次石油ショックの紙不足の影響で『土佐史談』137号発行が遅延

8・6 第1回史談こぼれ話会

51・11・1 土佐史談復刻叢書①宮地森城『土佐國古城略史』出版。以後、坂崎紫瀾『汗血千里駒』、佐々木甲象『泉州堺土藩土列拳実紀』、大野康雄『五台山誌』、島本仲道『ゆめ路の記』などを復刻出版する

53・9・1 広江清『高知近代宗教史』出版

54・2・28 『土佐史談』第150号を平尾道雄先生喜寿記念特集号として発行。また田中貢太郎『林有造伝』を出版

5・17 平尾道雄逝去

8・1 平尾学術奨励賞発足

55・1・1 『平尾道雄その人と史業』を出版

5・1 『土佐史談選書』として、内田八朗『細木庵常の歌』、岡林清水『土佐風土歷程―いしぶみのかげで―』を出版

55・6・14 会長に山本大を選任

56・7・31 『土佐史談』自由民権百年記念特集号を発行

57・4・20 『横川末吉遺稿集 地方史を歩く―土佐―』を出版

12・30 『土佐史談』板垣退助遭難百年特集号を発行

58・11・10 『土佐州郡誌(復刻版)』上巻を出版(下巻は59年5月出版)

8・1 広江清『長宗我部地検帳の神々』を出版

58・12・30 『土佐史談』野中兼山特集号を発行

60・11・15 『土佐史談』坂本龍馬生誕百五十年特集号を発行

61・12・12 『土佐史談』戸次川合戦特集号を発行。

この年10月、寺石正路『戸次川合戦』、『長宗我部盛親』、森林太郎『長宗我部信親』を復刻出版

62・11・20 『土佐史談』自由民権・三大事件建白運動百年特集号を発行

63・12・1 平尾道雄『坂本龍馬・中岡慎太郎』を復刻出版

【平成の歩み】

平成元・10・1 内田八朗『細木庵常の生涯』出版

12・20 『土佐史談』明治の土佐特集号を発行(以後、毎年12月は特集号となる)

4・4・1 会長に岡林清水を選任

8・1・20 『土佐史談』200号記念特集号を発行

3・1 『土佐史談』第1号〜200号までの

9・6・30 『土佐史談目録』を出版

8・1 竹本義明『今村楽歌文集』を出版

9・3 第1回郷土史講座を開催(以後、年2回開催)

この年 丹中山開発計画が問題となり坂本家墓地などを守る運動に協力する

10・2・28 高知市民図書館が『武市佐市郎集』(全10巻)の刊行開始

11・6・25 会長に佐伯賢一を選任

13・8・19 山本大元会長逝去

14・8・1 『土佐史談』山本大先生追悼特集号を発行

15・12・20 『土佐史談』土佐の災害特集号を発行

16・12・20 『土佐史談』土佐の女性史特集号を発行

17・1・29 土佐史談会関東支部結成総会

17・10・13 大河ドラマ『功名が辻』の放映に先立ち滋賀県の史跡めぐりを行う

18・12・20 『土佐史談』土佐の芸能・娯楽・大衆風俗史特集号を発行

この年 県補助金27万円が全額カットとなる

19・6・16 会長に高橋正を選任

21・5・27 県補助事業の土佐史談10講座を開始。第1回は大河ドラマ『龍馬伝』にちなみ「龍馬学10講座」。以後、毎年開講。

23・4・1 県補助事業の高校出前講座を開始

24・4・1 会長に宅間一之を選任

12・20 『土佐史談』大正100年特集号を発行

26・12・20 『土佐史談』中浜万次郎特集号発行

27・12・20 『土佐史談』創立100年記念特集号を発行

28・6・17 土佐史談会創立100年記念祝賀会(於・城西館)